

龍ヶ崎市人口ビジョン — 将来展望（案）

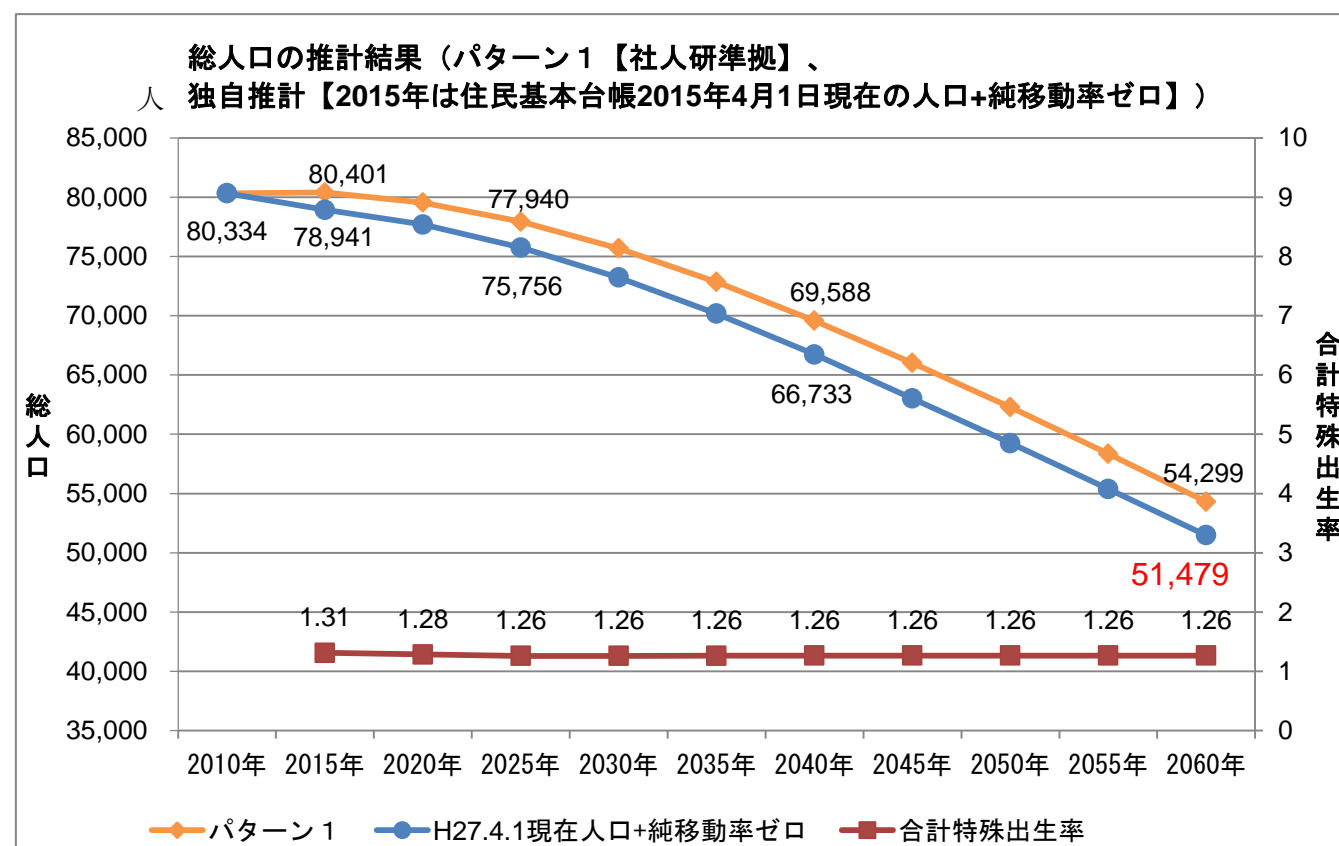
■ 5 地区別将来人口推計（2015年4月1日住民基本台帳をベースに推計）

○ 龍ヶ崎市の将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）に準拠した推計をベースとして、2015年4月1日の住民基本台帳の人口データを利用し、将来人口を推計しました。【パターン1】

また、社人研の純移動率の設定は、2005年から2010年にかけての移動実態から将来の純移動率を設定しており、本市の場合は2005年から2010年にかけては純移動率が全体でみるとプラスの値となっています。しかし、実際の人口動向では2010年から2015年がマイナスに転じていることを勘案し、推計にあたっては純移動率をゼロと仮定しました。【H27.4.1 現在人口+純移動率ゼロ】

図表 総人口の推計結果



推計の結果、社人研推計に準拠した結果よりも、さらに2,800人程度減少し、2060年には51,479人まで減少すると見込まれます。

注：「社人研」とは、国立社会保障・人口問題研究所の略です。ここでいう「社人研推計に準拠」とは、国の研究機関である社人研が、現況を基に行った最も確からしい将来人口推計の手法や推計結果に準拠する、ということです。

○ 5 地区別将来人口推計

龍ヶ崎市を5つの地区に区分し、2015年4月1日の住民基本台帳をベースにしたそれぞれの地区別将来人口推計を行いました。5地区とも龍ヶ崎市全体の将来人口推計で用いた生残率、純移動率、出生率と同じ値を用いて推計しています。これはかなり大胆な仮定であり、実際は地区ごとに大きく異なると考えられることから、この地区別の将来人口推計はかなり誤差の大きな推計であることをご承知おきください。

以下に5地区を人口減少率の高い順に並べて整理した表を示します。

図表 地区ごとの将来人口推計と人口減少率

順位	地区名	人口 (2015年)	人口 (2040年)	人口増減率	老年人口比率 (2015年)	老年人口比率 (2040年)
1	その他 (大宮、長戸、八原、川原代、北文間)	15,294	11,031	-27.9%	32.6%	42.6%
2	旧市街地 (龍ヶ崎)	14,301	10,905	-23.7%	30.8%	38.7%
3	佐貫駅周辺 (駒柴)	15,314	12,534	-18.2%	25.9%	37.7%
4	ニュータウン (北竜台)	20,208	17,956	-11.1%	19.9%	35.7%
5	ニュータウン (龍ヶ岡)	13,824	14,308	3.5%	11.0%	27.7%

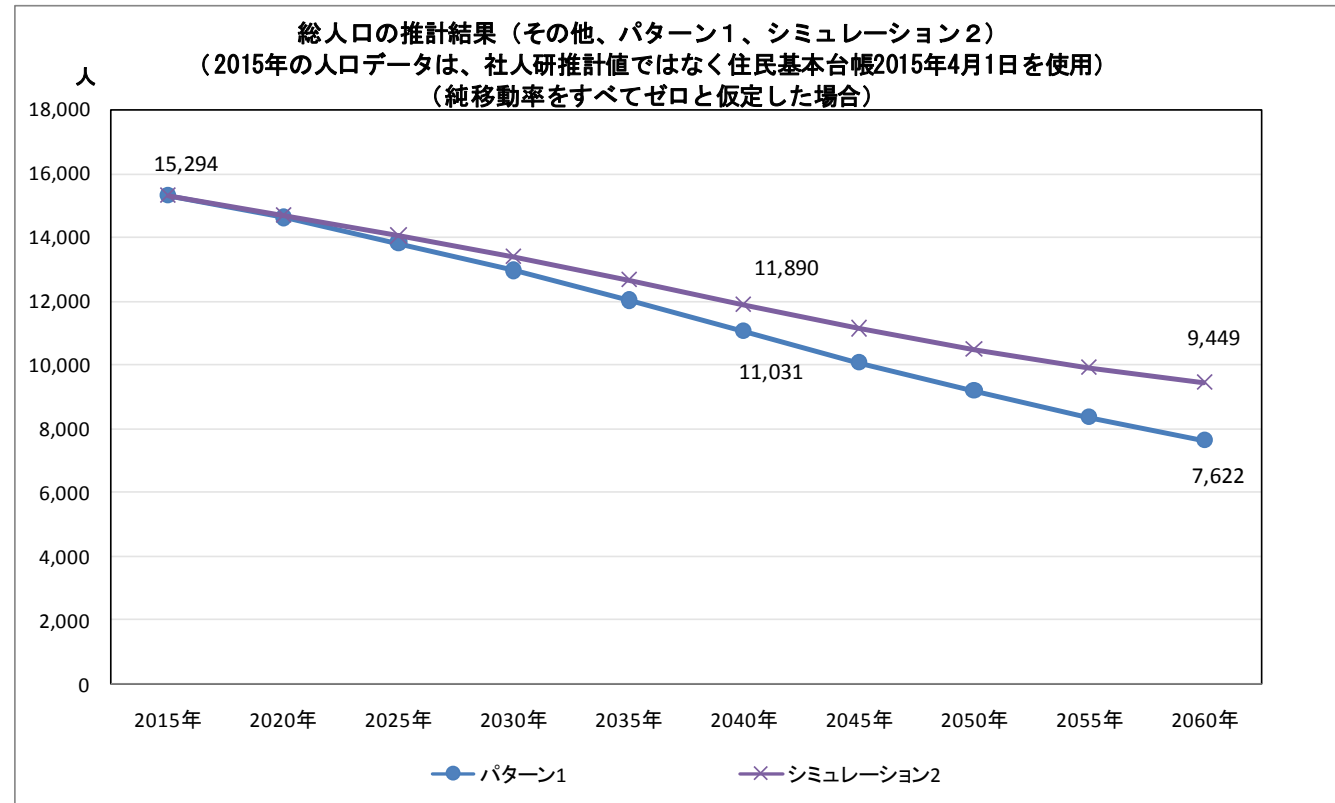
ニュータウン（龍ヶ岡）地区やニュータウン（北竜台）地区での人口減少率は低く、旧市街地やその他の地区が高いことがわかります。

以下に各地区の将来人口推計の結果のグラフ（総人口の推計結果と老年人口比率の推移）を示します。なお、グラフ内のシミュレーション2とは、以下のとおりです。

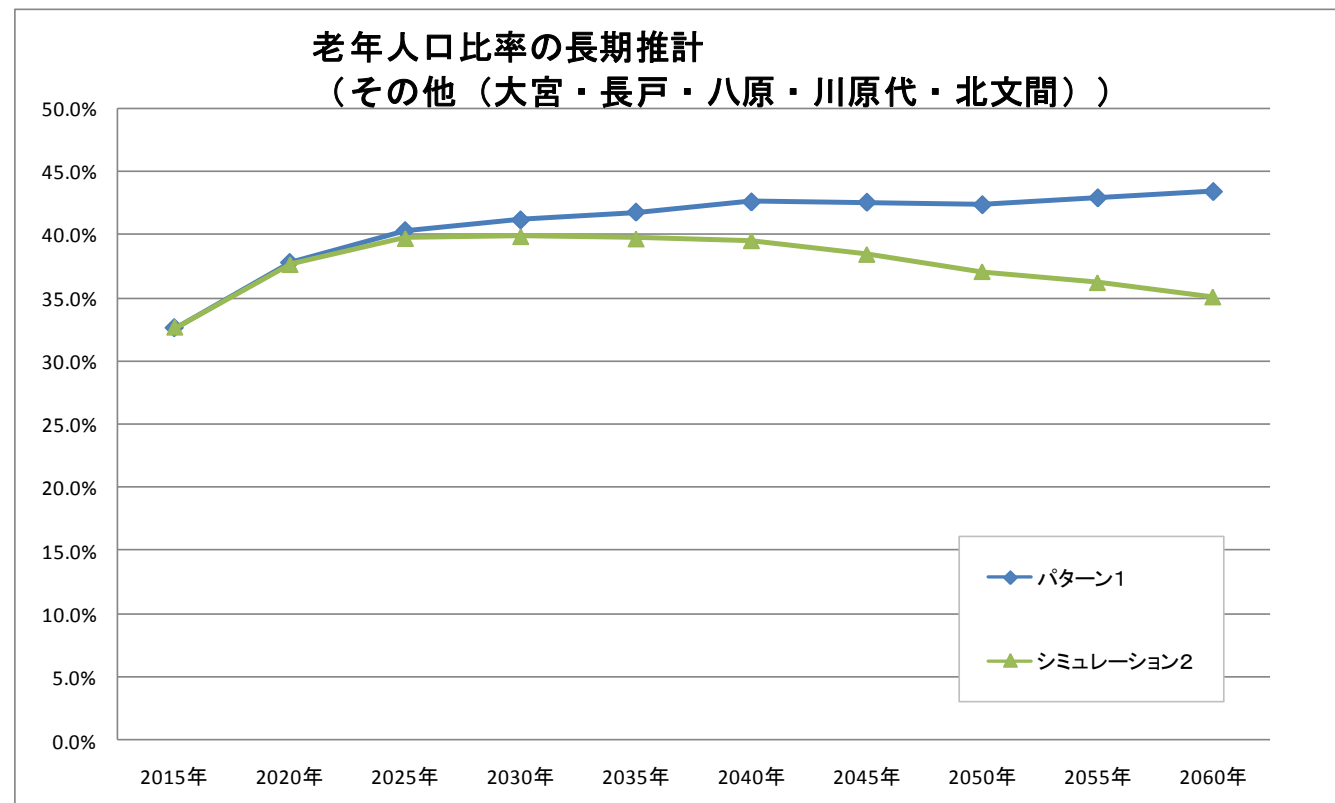
シミュレーション2	社人研推計に準拠した推計から、仮に、合計特殊出生率が平成42（2030）年までに人口置換水準（2.1）まで上昇し、かつ移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定
-----------	--

(1) その他 (大宮、長戸、八原、川原代、北文間)

図表 人口の推計結果 (その他地区)

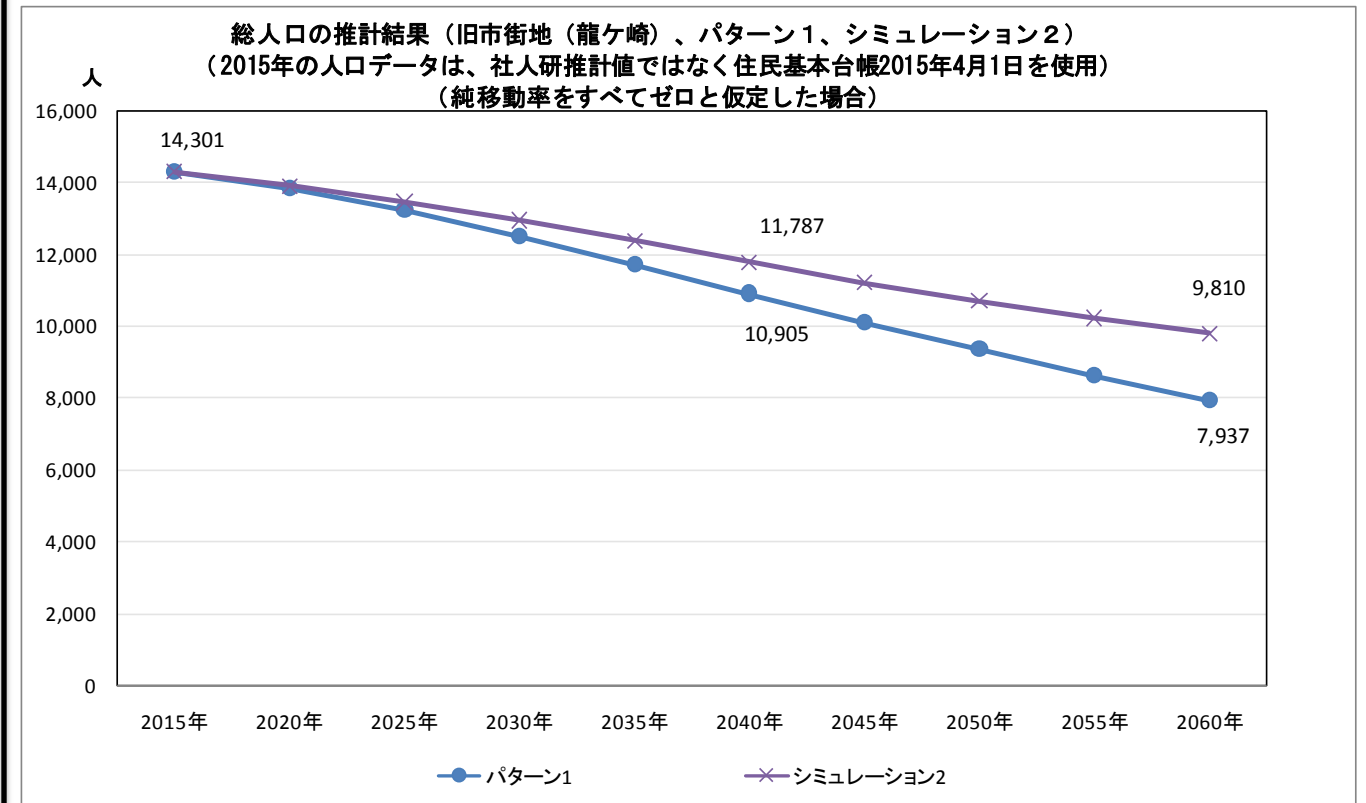


図表 老年人口比率の長期推計 (その他地区)

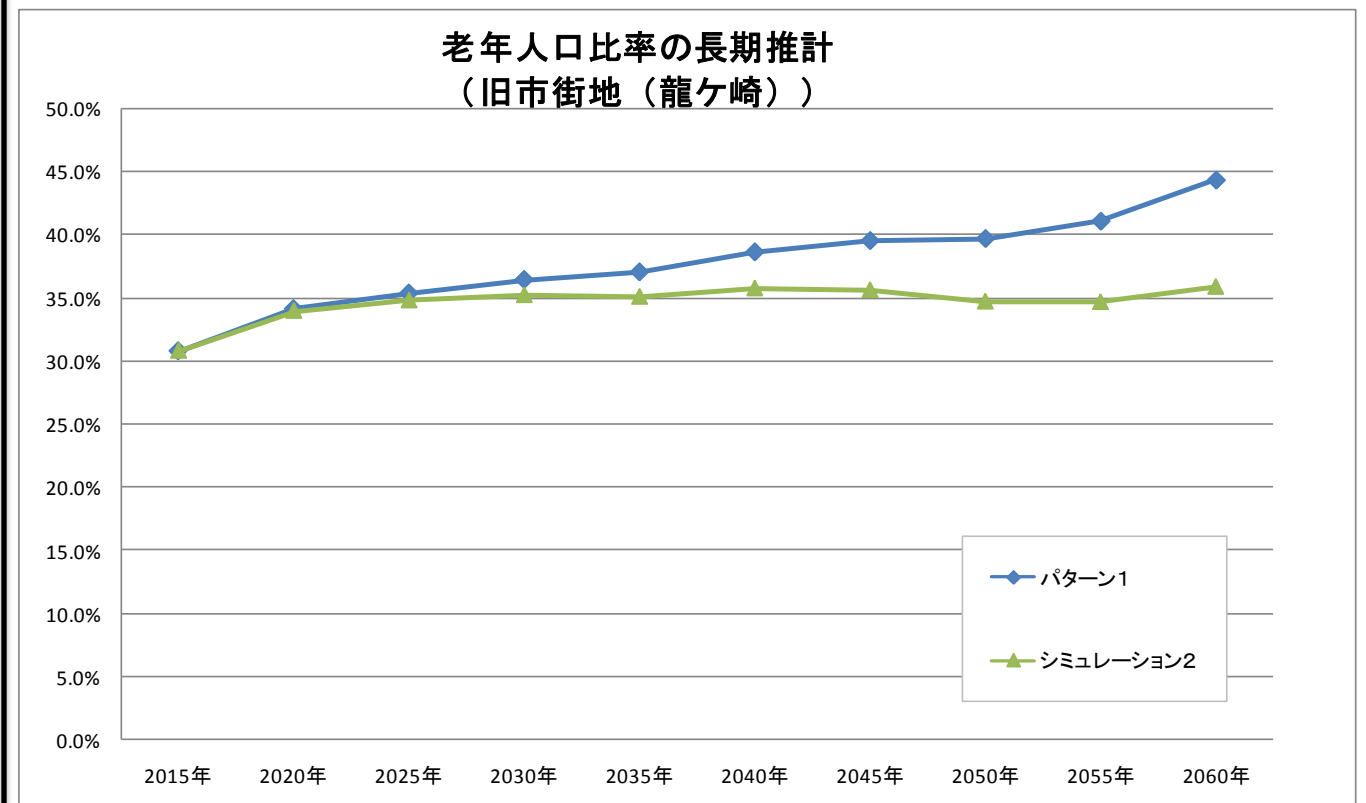


(2) 旧市街地 (龍ヶ崎)

図表 総人口の推計結果 (旧市街地 (龍ヶ崎) 地区)

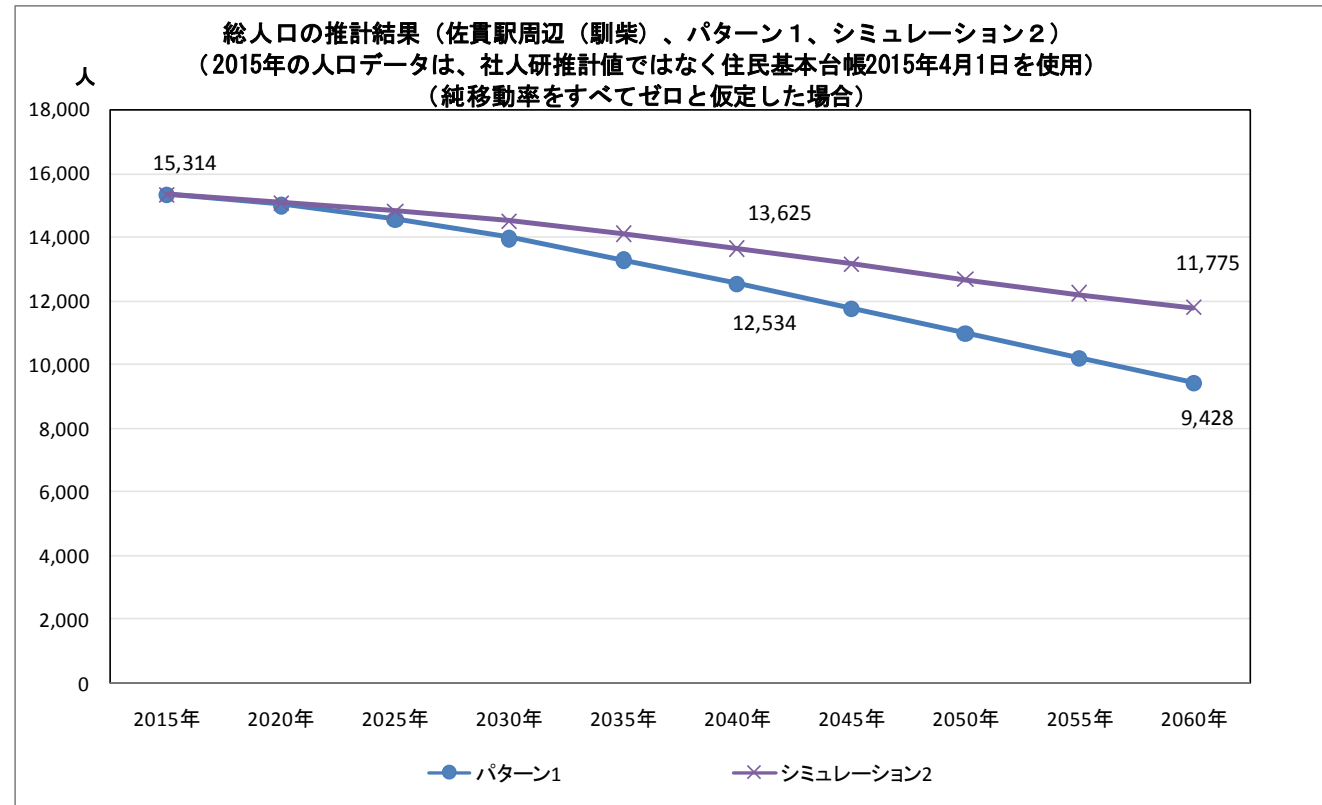


図表 老年人口比率の長期推計 (旧市街地 (龍ヶ崎) 地区)

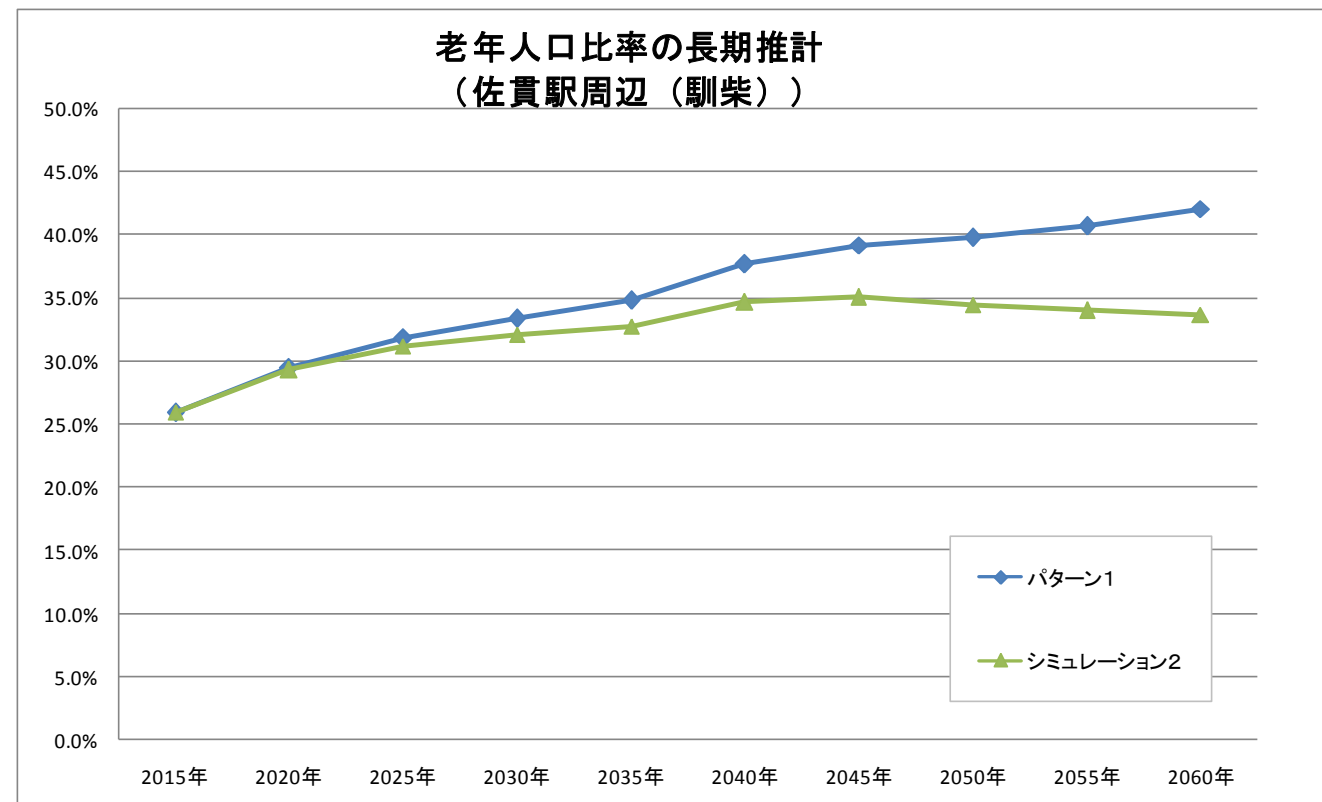


(3) 佐貫駅周辺 (馴柴)

図表 総人口の推計結果 (佐貫駅周辺 (馴柴) 地区)

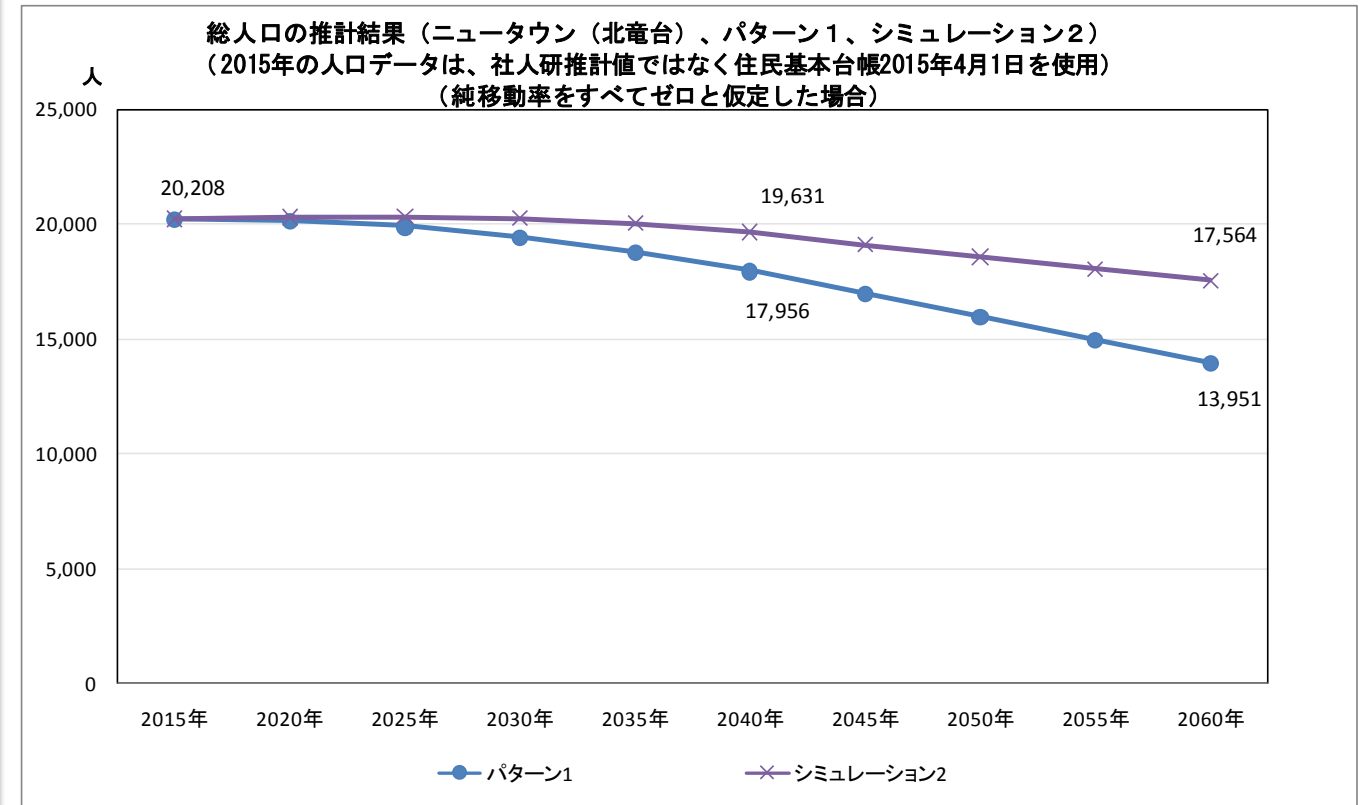


図表 老年人口比率の長期推計 (佐貫駅周辺 (馴柴) 地区)

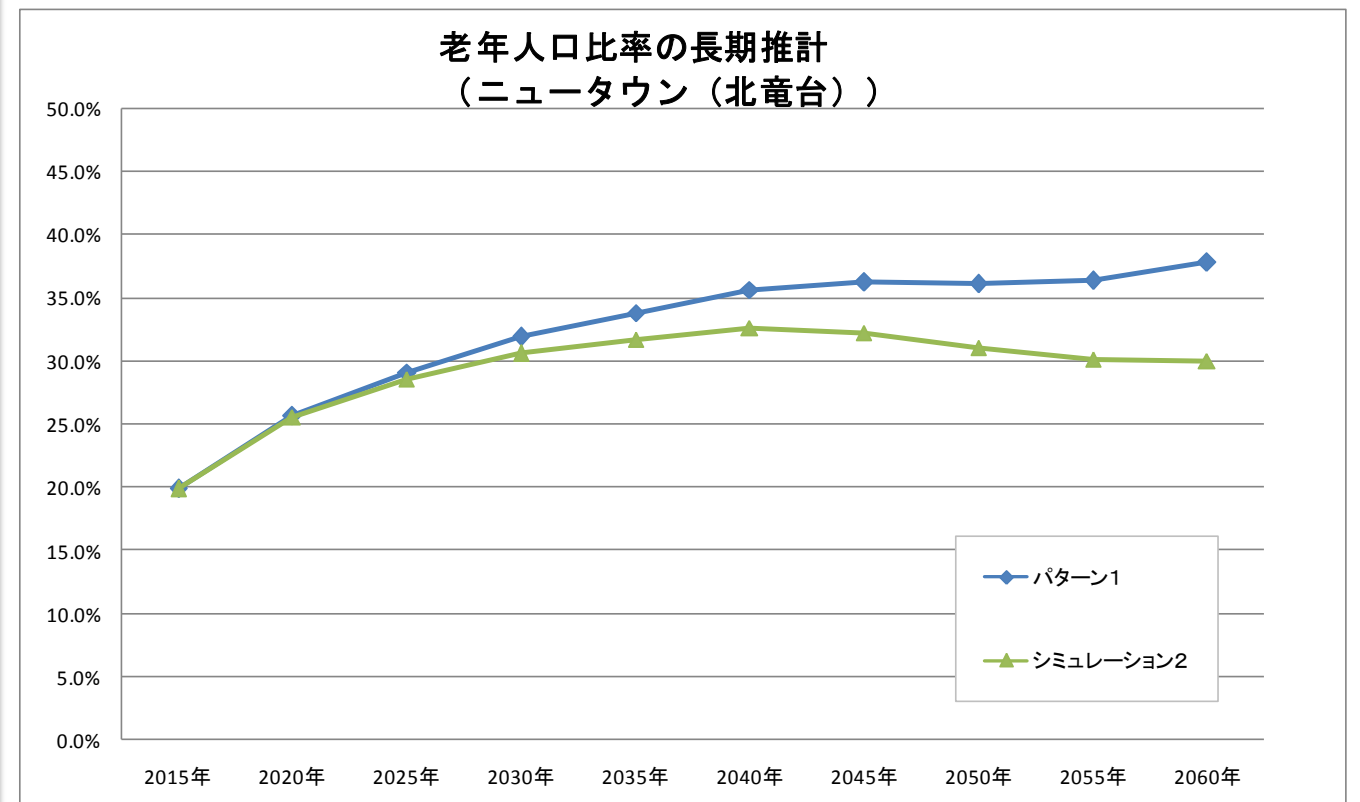


(4) ニュータウン (北竜台)

図表 総人口の推計結果 (ニュータウン (北竜台) 地区)

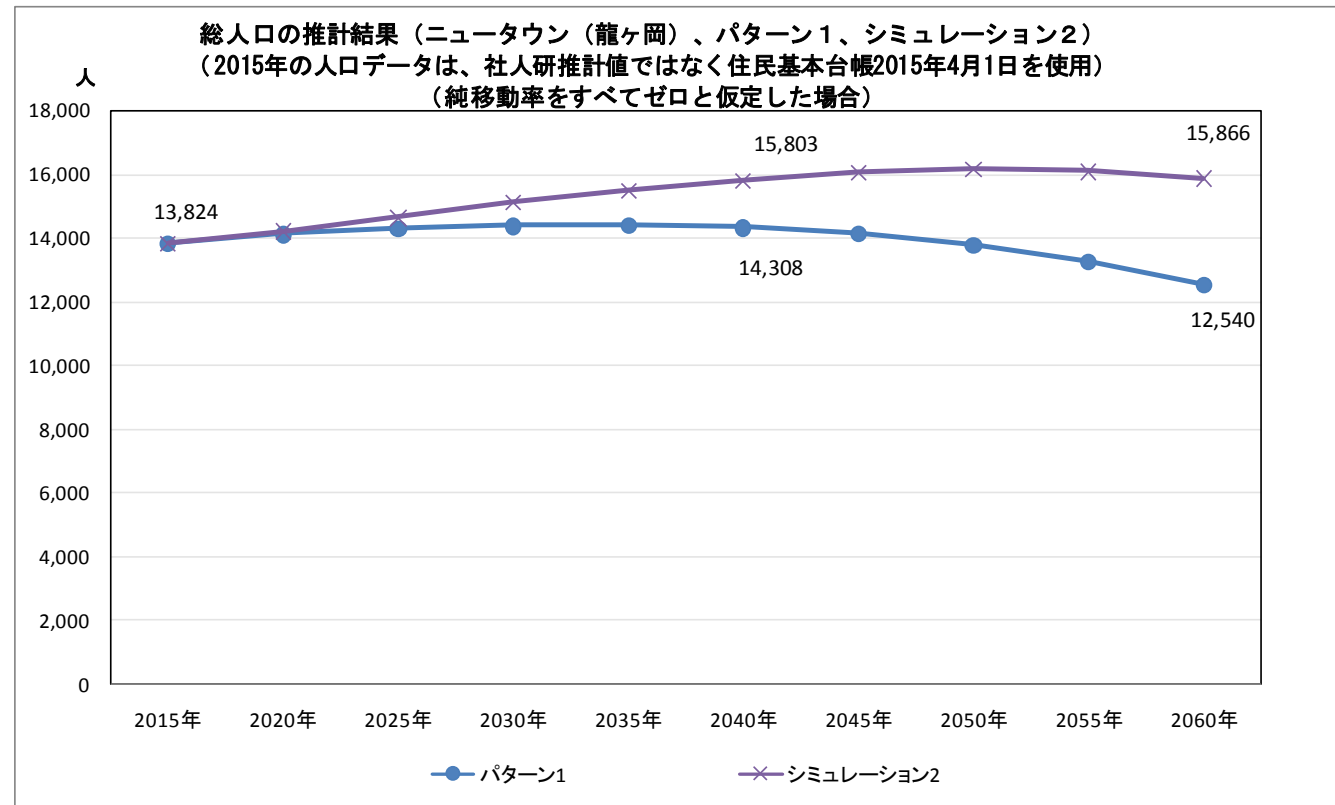


図表 老年人口比率の長期推計 (ニュータウン (北竜台) 地区)

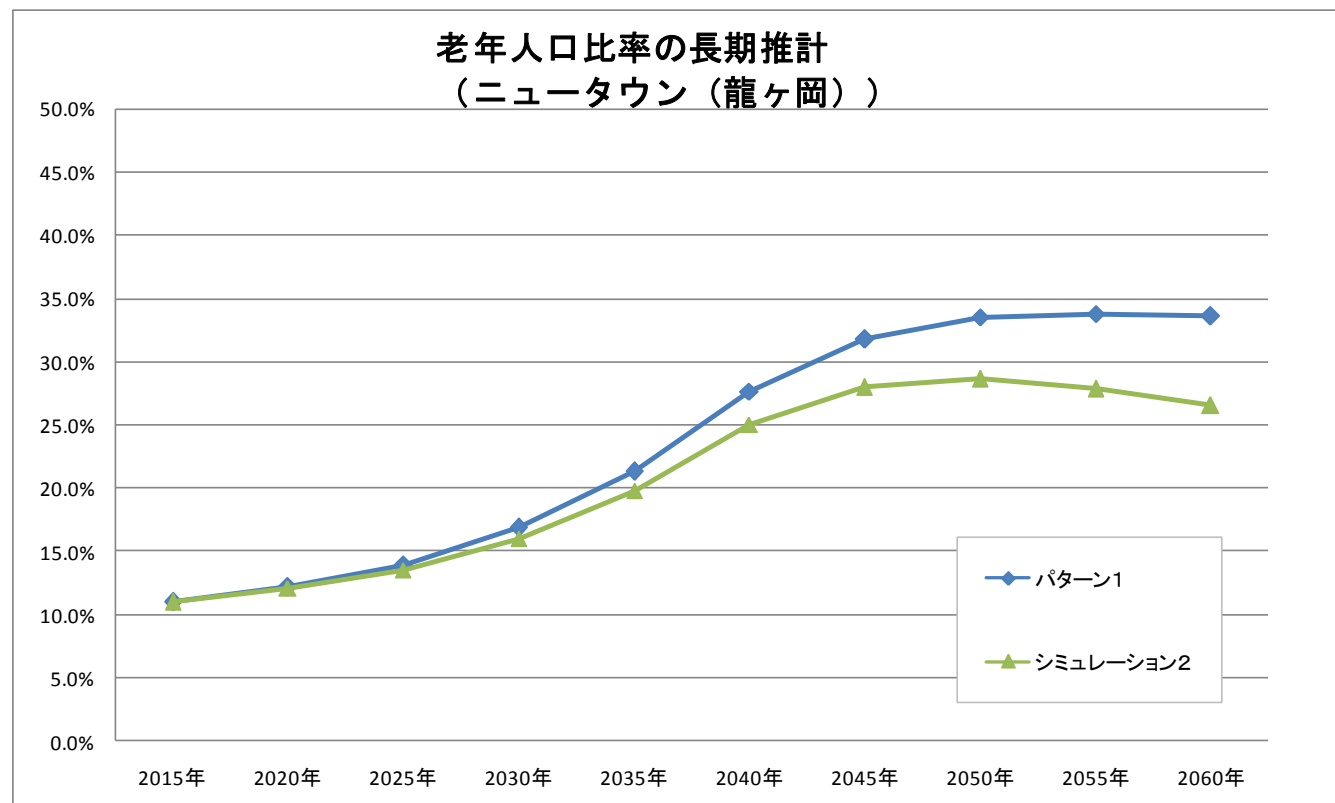


(5) ニュータウン（龍ヶ岡）

図表 総人口の推計結果（ニュータウン（龍ヶ岡）地区）



図表 老年人口比率の長期推計（ニュータウン（龍ヶ岡）地区）



■将来展望（2015年4月1日住民基本台帳をベースに将来人口推計）

人口ビジョンの核となる将来展望についての事務局案であり、ここでは3種類のシナリオを示しています。人口ビジョンを確定するには、一つの将来展望を設定する必要があります。

龍ヶ崎市人口ビジョン（骨子案）

1. 龍ヶ崎市における人口問題に対する基本的認識

- 本市の総人口は、日本の高度経済成長などに支えられつつ、昭和50年代後半からのニュータウン開発などにより順調に増加してきたが、2010（平成22）年の80,334人をピークに減少傾向にあり、2015（平成27）年の住民基本台帳人口は78,941人となっている
- 合計特殊出生率は、2013（平成25）年は1.29であり、国・茨城県を下回っている。2005（平成17）年以降、国・茨城県については上昇傾向にあるが、当市は低出生率を継続しており、近年は死亡数が出生数を上回る自然減への移行が顕著である
- 社会増減については、1994（平成6）年に2,671人の転入超過を記録するなど、2006（平成18）年までは社会増の状態が継続していたが、近年では若干であるが社会減へ移行している
- 年齢階層別人口移動は、大学進学時を含む15～19歳は転入超過になっているが、20～24歳、25～29歳、30～34歳の各階層において大幅な転出超過となっている

2. 将来人口の推計

- 2010（平成22）年国勢調査の人口データを基にした国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によると、2015（平成27）年の80,401人をピークに、今後急速に人口減少が進み、2040（平成52）年には69,588人、2060（平成72）年には54,299人（32.5%減）になると見込まれる
- 現状は社人研推計を下回ることから、2015（平成27）年の人口について、4月1日現在の住民基本台帳人口に置き換えるとともに、純移動率をゼロと仮定した推計によると2040（平成52）年には66,733人、2060（平成72）年には51,479人（36.0%減）になると見込まれる
- 2015（平成27）年の住民基本台帳人口を基にした推計では、15～64歳の生産年齢人口は、その構成比が2010（平成22）年の67.2%から、2060年には52.1%まで減少し、65歳以上の老年人口は19.0%から39.4%へ大幅に増加する見込みである（2015年4月1日住民基本台帳では、老年人口比率は24.0%）



3. 人口の将来展望

《目指すべき将来の方向》

- ①子育て世代が安心して子育てできるまちづくり
- ②まちの住みよさをアップさせ移住・定住したくなるまちづくり
- ③少子高齢型社会に対応したまちづくり

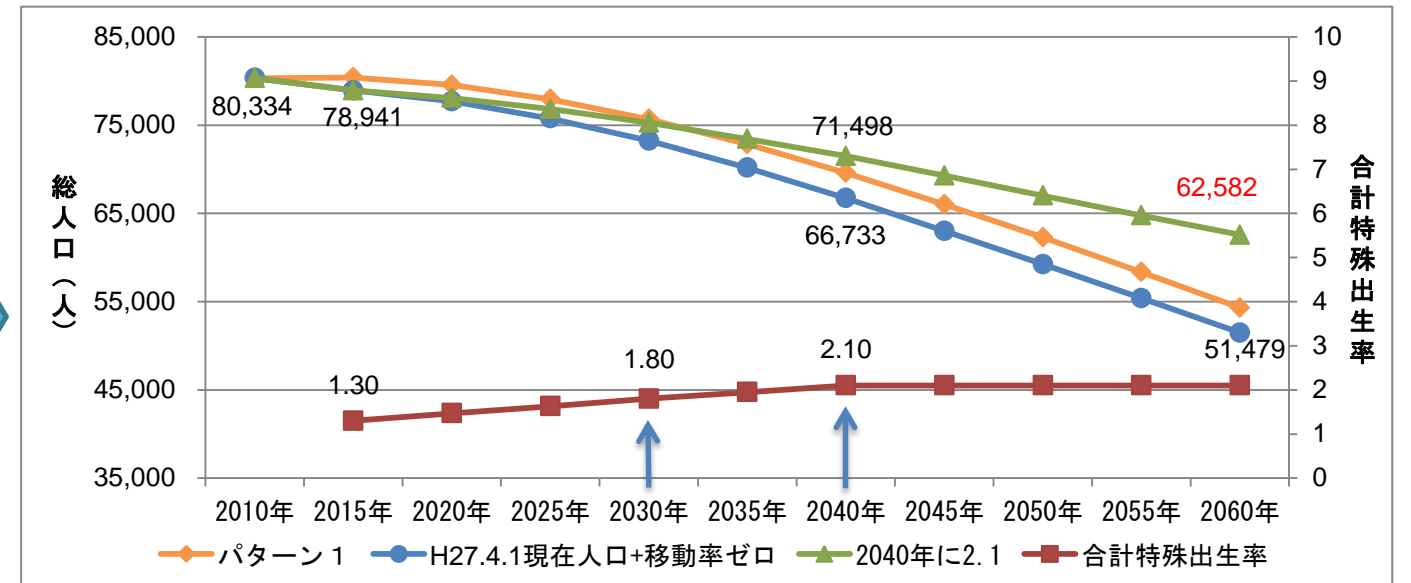
①

《人口増加に向けた新たな目標の設定》

- ・合計特殊出生率は、2030年に1.80、2040年に2.1に上昇する
- ・人口移動（社会増減）は、ゼロに設定する

目標人口：2060年 62,600人

老年人口比率：2060年 32.4%



《目指すべき将来の方向》

- ①子育て世代が安心して子育てできるまちづくり
- ②まちの住みよさをアップさせ移住・定住したくなるまちづくり
- ③少子高齢型社会に対応したまちづくり

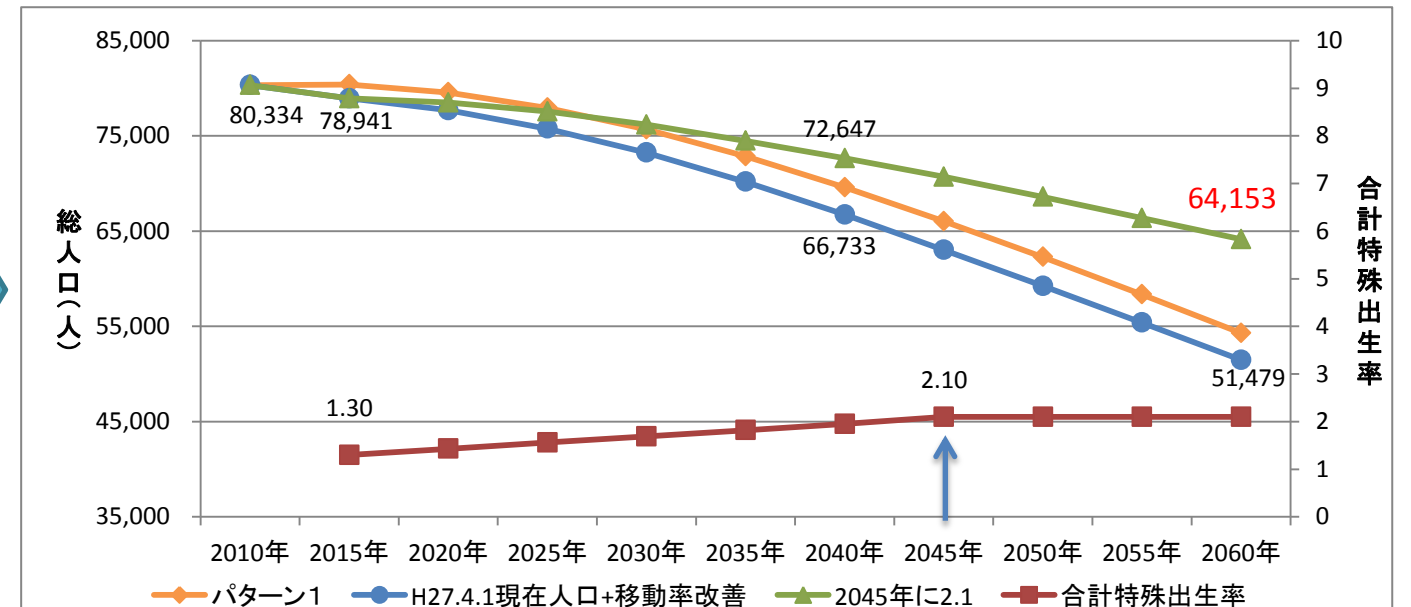
②

《人口増加に向けた新たな目標の設定》

- ・合計特殊出生率は、2045年に人口置換水準 2.1 に上昇する
- ・人口移動（社会増減）は、転出が大幅超過の世代（10代、20代）は転出を20%減らし、子育て世代とその子ども世代（0代、30代）は転入を20%増やす。それ以外の世代は社人研の推計に準拠する

目標人口：2060年 64,200人

老年人口比率：2060年 33.7%



《目指すべき将来の方向》

- ①子育て世代が安心して子育てできるまちづくり
- ②まちの住みよさをアップさせ移住・定住したくなるまちづくり
- ③少子高齢型社会に対応したまちづくり

③

《人口増加に向けた新たな目標の設定》

- ・合計特殊出生率は2030年に1.80、2040年に2.1に上昇する
- ・人口移動（社会増減）は、転出が大幅超過の世代（10代、20代）は転出を20%減らし、子育て世代とその子ども世代（0代、30代）は転入を20%増やす。それ以外の世代は社人研の推計に準拠する

目標人口：2060年 65,600人

老年人口比率：2060年 33.0%

